

令和2年度 第2回 帯広市地域包括支援センター運営協議会議事概要

日時 令和2年8月31日(月) 18:55~19:20

場所 帯広市役所 10階第2会議室

出席者 井出委員 鬼崎委員 杉野委員 鈴木委員 鳴海委員 濱委員 村上委員 (五十音順)

事務局(地域福祉課) 毛利課長、永田課長補佐、家内課長補佐、宮腰係長、北野主査、堀主任、岩佐係長
(介護高齢福祉課) 内藤課長、藤原課長補佐

1. 開 会 (18:55)

委員の変更について報告、新委員の村上委員、鈴木委員を紹介。

会議の成立について、委員8名中7名の出席があり、「帯広市地域包括支援センター運営協議会設置要綱」第6条第2項により成立していることを報告。

2. 議 題

(1) 帯広市地域包括支援センター運営協議会所掌分

報告事項1 指定介護予防支援事業等の一部を委託する居宅介護支援事業所の選定

資料に基づき事務局より説明。前回報告時より追加があった地域包括支援センター愛仁園分について報告。
(質疑・応答) 特になし。

報告事項2 地域包括支援センター職員体制

資料に基づき事務局より説明。前回報告時より変更はないことを報告。
(質疑・応答) 特になし。

協議事項1 令和元年度 地域包括支援センター事業評価

資料に基づき事務局より説明。事業評価については、PCDAサイクルを回し機能強化を図ることを目的に昨年開始している。運営協議会においては、各地域包括支援センターのよい取組みや強化が必要なところについて意見をいただきたい。

地域包括支援センター帯広至心寮については、昨年と比較して包括的継続的ケアマネジメントの評価が上昇している。ヒアリングでは、居宅介護支援事業所を回ったり学習会の企画など連携の充実を図っているとの話を聞いている。評価が低いものは特になかった。

地域包括支援センター帯広市社会福祉協議会については、昨年地域ケア会議の評価が上昇している。昨年度は自立支援型の会議を企画開催しており、多職種のネットワークの拡大が図られている。今後の強化が必要なところとしては、包括的継続的ケアマネジメントのところだが、昨年度の評価が低い理由としては年度末に企画していた研修会や事例検討会がコロナにより中止になっていることが影響している。

地域包括支援センター愛仁園については、昨年地域ケア会議の評価が上昇した。もともとケアマネジメント支援会議を計画的に開催するなど充実していたが、モニタリングの実施の部分で評価が上昇した。今後強化が必要なのは、事業間連携及び関連事業のところだが、昨年度の評価が低いのは、年度末に予定していた行事がコロナにより中止になっていることが影響している。

地域包括支援センター帯広けいせい苑については、昨年度の評価が低かったが、すべての項目で上昇していた。ヒアリングでも昨年の評価を受けて改善を図ったと聞いている。特に権利擁護業務と包括的継続的ケアマネジメントのところが上昇しており、消費者被害の普及啓発や成年後見制度の連携に取り組んでいる。

全体を通して、昨年度より自己評価、行政評価とも上昇しており、機能強化につながったと思われる。評価の方法として、パーセントで表しているが、回答者の捉え方や設問の数によって数値が大きく変わってくるなど課題もあることから、方法については今後検討していきたいのでご意見をいただきたい。

(質疑・応答)

委員 評価の方法を変えているのは何年度からか。

事務局 事業評価は昨年度から開始し今回で2回目。パーセントで表すなど大きな概略は昨年度から変えていない。項目を何か所か追加したり、評価基準を若干変更している。

委員 例えば、地域ケア会議の評価については、何回実施したかということと、回数は少ないが一人の人にしっかり関わっているか、必要とされる支援をしているのか、成果をだしているのか、ということがあるが、どういった評価をするのかによる。

事務局 昨年の実施回数は7～21回だった。内容については、各センターより提出される地域ケア会議の企画書、報告書で確認している。一人の方について複数回開催しているケースもある。

委員 地域ケア会議は具体的な個人の困難に対する支援になるかと思うが、最終的にその方が大丈夫というところまでもっていくのか、関係者同士で了解しあうところまでもっていくのか、どういった評価基準で考えているのか。

事務局 その方の課題が最終的に解決するまで会議を続けることはあまりなく、支援の方向性を検討する形となっている。終結については基準があり関係機関や担当者で話しあって決定している。会議で方向性を検討するなかで、それを積み重ねて地域の課題を検討していくという目的もある。

委員 地域のなかでの課題や個人の課題など、場合によっていろいろあると思うが、例えば地域包括支援センター△△からだされた課題については、方向性を決めて地域包括支援センター△△が中心になって動いていくという流れになるのか。

事務局 そういった場合もあれば、その会議のなかで中心的に動く関係機関が決まることもある。

いろいろな機能をひとつの会議で全部果たすのは難しいので、帯広市では地域包括支援センターが行う個別ケア会議では個別事例の検討、課題の解決を行い、その他に分野別にネットワーク会議を行っている。ネットワーク会議には、認知症ケア、在宅医療介護連携、生活支援体制についてなどがあり、ネットワーク会議において個別ケア会議であがっている課題を報告しながら、市全体でどういったことが課題になっているのか、どういった取り組みをするかといったことをグループワークで話し合ったり、どのような形で課題解決につなげていくかという検討をしている。

委員 満足度とか、よくなったとか、そういったことは数値化ではなかなかにくいものかと思う。ポイントで自分たちがやっているかやっていないかということが、この評価のベースになっていると思うので、こういったポイントをセンターの職員が理解把握したうえですすめていってもらえればいいのか。

(2) 地域密着型サービス運営委員会所掌分 (19:20～) ※別途報告

(3) その他 (20:25)

事務局より、次回開催時期は2月に予定していることを連絡。

3. 閉会 (20:25)